

老兵ポンプ車と消防団確保

鹿角広域行政組合消防本部

1 はじめに

鹿角市は、秋田県の最北東部、北東北3県の中央に位置し、北は青森県、東は岩手県に接しています。また、北に十和田湖、南には八幡平の国立公園をひかえ、これに連なる緑の山々と米代川に注ぎ込む多くの清流に恵まれています。

本市は、東西に20.1km、南北に52.3kmと細長く、総面積は707.34km²で、東北自動車道が南北に縦断し、鹿角八幡平、十和田の2つのインターチェンジがあります。

人口は約3万6千人で、気候は内陸型気候に属し、年平均気温は約10℃、年間降水量は約1,500mm、積雪は平地で約80cm、比較的自然災害

の少ない地域です。

本市の観光は、十和田八幡平国立公園を始め、縄文遺跡であるストーンサークルで有名な大湯環状列石、1300年の歴史と採掘跡を間近に見られる史跡尾去沢鉱山などがあります。なお、市内には八幡平温泉郷、湯瀬温泉郷、大湯温泉郷など、湯量豊富な温泉が数多くありますので、お近くにおいでになられた際は、是非お立ち寄りください。

2 鹿角市消防団について

鹿角市は、昭和47年4月に4カ町村が合併して誕生しています。このとき、旧町村にそれぞれの消防団があり、そのまま引き継ぐために消防団組



「ダッチ」の愛称で呼ばれる、秋田県最古の消防ポンプ車



「ダッチ」と新型消防ポンプ車

織を暫定的に「鹿角市連合消防団」として発足し、昭和54年9月に分団の統合などの再編成が整い、現在の「鹿角市消防団」の名称となりました。以降、数回の改編により、現在は17分団38部、定員数892人、実員数868人（平成21年11月1日現在）となっています。

3 老兵ポンプ車「ダッチ」について

鹿角市消防団第12分団第1部では、秋田県では最古となる消防ポンプ車を保存しています。このポンプ車は、昭和11年製のアメリカのダッジブラザーズ社製の車体をベースに、市原唧筒諸機械製作所（市原ポンプ）で改造されたものです。地元では、古くから「ダッチ」の愛称で呼ばれています。

第12分団の前身である毛馬内消防組では、昭和10年4月に発生した管轄内の大火を教訓にし、毛馬内消防組にも消防ポンプ車が必要という意見が出ました。しかし当時の限られた消防組の予算で

は、消防ポンプ車の購入は夢のまた夢でした。諦めきれない当時の組員達は、一晚60銭の夜警手当を積み立てたり、寄付金を募ったり、さまざまな苦勞を重ね、昭和12年に念願の当時最新式の消防ポンプ車を購入しました。購入費用は6,500円（当時の白米10kgの値段が2円50銭）で、現在の価格では600万円から800万円位とも言われる大変高価な車両でした。その大馬力、高性能の「ダッチ」の噂は、瞬く間に近隣の町村に広まり、大規模な火災があれば遠方の町村からも応援出動の要請があり、地元の消防組を追い越して活躍したとのエピソードもある消防ポンプ車でした。

「ダッチ」は、昭和50年に38年間にわたる現役生活に幕を閉じました。一般に消防車は引退と同時に処分されますが、大先輩が苦勞して購入した車なので簡単に処分できず、しばらくは埃にまみれて全く手付かずの状態、その余生を送っていました。

しかし、平成2年になり、4年後に迫った「毛



馬内消防組創立百周年」を記念して、毛馬内消防組の地域防災に懸けた熱い思いが込められた「ダッチ」を再び走らせようという計画が持ち上がりました。団員や地域の人たちが集まり手弁当で4年の歳月を掛け修復整備が行われました。平成6年の百周年記念で「ダッチ」は、地元の目抜き通りを堂々とパレードし、先輩団員や地域住民にその勇姿を披露しました。

以降、「ダッチ」は、地域を守る消防の象徴として分団で大切に保存されています。

4 団員確保の取り組み

鹿角市消防団では、近年、高年齢化による退団者の増加、若年者層人口の減少などにより、数年前から定員割れが深刻になりました。平成18年4月には、定員892人に対し、実員795人と団員数が過去最低を記録しました。また、団員のサラリーマン化などにより、管轄外に勤務する団員も多くなり、日中地域に残っている団員が減少し、火災などの災害に対する団員確保が大変厳しい状況になってきました。

そのため本市では、平成19年4月に「市民を守る魅力ある消防団づくり」基本計画を策定し、女性消防団員及び機能別団員の採用などの様々な施策を行ってきました。

その一環として、消防団活性化のために、再び「ダッチ」を披露しようという計画が持ち上がり、平成20年の消防出初め式では、パレードの先導を「ダッチ」が務め、その勇姿が多く市民を魅了しました。また、「ダッチ」を守る分団だけではなく、消防団全体の士気も大きく高まりました。

本市消防団では、機能別団員を採用しましたが、今では基本団員も増加傾向にあり、団員数は868人まで回復しました。魅力ある消防団づくりが浸透してきた結果と分析しています。

5 おわりに

私たちは、先人が残した、この「ダッチ」を消防の歴史を語る貴重な文化財として、消防団の魅力として伝えながら、今後も団員確保に結びつけていきたいと考えています。

なお、「ダッチ」は、第12分団第1部の番屋で新しいポンプ車の隣に展示されています。普段はシャッターが閉められていますが、シャッターには「ダッチ」の勇姿が描かれ、地域住民の目を楽しませています。鹿角広域行政組合消防本部総務課（Tel. 0186-23-5601）に連絡をいただければ一般の方々の見学も可能ですので、ご連絡をお待ちしております。



シャッターに描かれた消防ポンプ車「ダッチ」の勇姿